



第20回「野生生物と交通」研究発表会

聴講無料・完全申込制 〈プログラム〉 日時:2021年2月15日(月) 10:30~

SYMPOSIUM ON WILDLIFE AND TRAFFIC 2021 全体スケジュール		10:40-11:40	第1分科会	13:00-14:20	第2分科会	14:30-15:50	第3分科会
10:30-10:40	開会・挨拶	11:40-12:00	パネル展示PR	14:20-14:30	休憩	16:00	閉会
		12:00-13:00	昼食				

第1分科会(エゾシカと植物) 10:40-11:40

座長:原文宏((一社)北海道開発技術センター)

- 10:40
|
11:00 橋を渡るエゾシカ:通行量から探る行動 ○中島卓也、中国美紀、重松琢和、丸山立一
(株式会社構研エンジニアリング)
- 11:00
|
11:20 エゾシカの食害を考慮した樹木による植生復元
—実施9年後の状況— ○檜澤肇、阿部正明
(一社)北海道開発技術センター)
- 11:20
|
11:40 ドライバーによる動物の視認性を考慮した
植生管理の一提案 ○吾田佳穂、浅利裕伸(帯広畜産大学)
野呂美紗子、鹿野たか嶺、佐藤真人
(一社)北海道開発技術センター)

★パネル展示PR:11:40-12:00 ★昼食:12:00-13:00

第2分科会(事故対策) 13:00-14:20

座長:阿部正明((一社)北海道開発技術センター)

- 13:00
|
13:20 タンチョウにおける列車事故の発生状況 ○吉野智生(釧路市動物園)
- 13:20
|
13:40 道路から離れた場所の野生動物死体でも死因が交通事故と
推定された事例 —そこから提起される法獣医学的諸課題— 太田素良、中本篤武、岡田東彦(酪農学園大学)
吉野智生(酪農学園大学、釧路市動物園)
○浅川満彦(酪農学園大学)
- 13:40
|
14:00 イノシシとシカに対する高周波・低周波発生装置効果について
ロードキルならびに獣害対策への実用性の検証 ○辻維周(岡山理科大学)
- 14:00
|
14:20 走行車に搭載された鹿と車両の
車衝突回避用超指向性スピーカの音響特性 ○松崎博季、真田博文、和田直史(北海道科学大学)

休憩 14:20-14:30

第3分科会(保全) 14:30-15:50

座長:原文宏((一社)北海道開発技術センター)

- 14:30
|
14:50 貴重植物の移植における栄養繁殖方式(クローンの利用)と
自家受粉による健全種子の難生産の問題について ○斎藤新一郎((一社)北海道開発技術センター)
小西欽也(パーム測量設計 株式会社)
- 14:50
|
15:10 農地景観の小河川におけるニホンザリガニの生息地選択:
局所及び景観要因に着目して ○玉田祐介、大内のぞみ、貝塚淳、竹田則喜、石川博規
(株式会社長大)
- 15:10
|
15:30 センサーカメラを用いた猛禽類の調査
—繁殖モニタリングおよび巢内の状況— ○嘉藤慎讓(株式会社地域環境計画)
平井克彦(北海道ラプターコンサベーション)
柳川久(帯広畜産大学)
- 15:30
|
15:50 奄美大島におけるナイトツアーの
利用調整に関する実証実験についての報告 ○鈴木真理子、早瀬穂奈実
(環境省奄美野生生物保護センター)

閉会 16:00

★webサイト内でパネル展示を行います(期間:2021年2月15日[月]~3月10日[水])

パネル 展示

- 鹿ソニック(㈱ティ.エム.ワークス) ■IoT自動撮影カメラとAI搭載クラウド(株式会社ハイク) ■エゾシカ協会の取り組み紹介((一社)エゾシカ協会)
- スマートフォンアプリでロードキルデータを収集する実証実験—ロードキルデータプラットフォームの構築を目指して—
(帯広畜産大学農業共生圏高度専門教育成事業、株式会社バイオーム) 他

【お問い合わせ】(一社)北海道開発技術センター内「野生生物と交通」研究発表会係(担当:向井奈由美、鹿野たか嶺)

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル3F (一社)北海道開発技術センター内

●電話:011-738-3363 ●FAX:011-738-1890 ●[E-mail] wildlife@decnet.or.jp ●[Web] http://www.wildlife-traffic.jp/

聴講申し込みはこちら!
(2月10日[水]まで)



●主催:(一社)北海道開発技術センター ●共催:(一社)エゾシカ協会、(公財)北海道環境財団、アニマルパスウェイ研究会、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会、道路生態研究会、(一社)シーニックバイウェイ支援センター ●協力:エコ・ネットワーク ●後援:国土交通省北海道開発局、国土交通省北海道運輸局、北海道、東日本高速道路(株)北海道支社、北海道旅客鉄道(株)、帯広畜産大学、(一社)日本福祉のまちづくり学会北海道支部

recycled paper